

▼平成20年度桂川町防災会議の冒頭、「万が一に備えて、各機関の連携及び体制の強化をお願いします。」と述べる、桂川町防災会議会長の井上町長。(写真奥壁側中央)



# いざという時のために！

# 命を守る脅威が加す水

**6** 月5日(木)の午前中、桂川町役場の会議室にて、「平成20年度桂川町防災会議」が開催されました。

この会議は毎年、災害の発生しやすい梅雨の時期を前に桂川町長を会長として、桂川消防署、桂川町消防団、桂川町役場建設課など関係課、国土交通省遠賀川河川事務所、飯塚土木事務所、飯塚警察署、陸上自衛隊飯塚駐屯地、九州電力(株)、NTT西日本他、各関係機関が集まり行われています。万が一、桂川町の地域にかかる河川、湖沼の洪水等の大規模な自然災害が発生、もしくは起こることが予測される時に、速やかに各機関が連携して対処し、その被害を軽減することが目的です。

また、会議終了後は、桂川町内の重要水防警戒箇所を巡視し、先の集中豪雨等で災害の発生した場所の対処・復興状況や危険箇所を確認するとともに、行政機関として『いざという時のために！』平時からの備えを再確認しました。



▲平成15年7月19日の集中豪雨で、近隣に大きな被害を出した、馬敷川・馬場島橋付近での重要水防警戒箇所巡視の様子。



◀泉河内川(土師)に新しく設置しなおされたテレメータ(水位計)24時間、河川の水位を観測する。

## ◆雨の強さと降り方◆

1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ	人への影響	災害が発生する状況
10以上～20未満	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	・この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	・溝や下水、小さな川があふれ、小さい規模のがけ崩れが始まる
30以上～50未満	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる	・山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 ・都市では下水管から雨水があふれる
50以上～80未満	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘はまったく役に立たなくなる	・都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある ・マンホールから水がはげしくあふれる ・土石流が起こりやすい ・多くの災害が発生する
80以上～	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる	傘はまったく役に立たなくなる	・雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な注意が必要

